

## 平成 20 年度 第 1 回長崎県がん診療連携拠点病院研修会

(アンケート調査結果)

開催日 平成 20 年 5 月 23 日 (金曜日)

時間 18 : 45 ~ 20 : 00

場所 長崎大学医学部 記念講堂

出席者 168 名 回答者 99 名

出席者の職種

① 医師	56 名 (大学病院 : 37 名 地域拠点病院 : 3 名 その他 : 16 名)
② 歯科医師	2 名 (大学病院 : 2 名)
③ 看護師	42 名 (大学病院 : 13 名 地域拠点病院 : 15 名 その他 : 14 名)
④ 薬剤師	33 名 (大学病院 : 16 名 地域拠点病院 : 4 名 その他 : 13 名)
⑤ ソーシャルワーカー	8 名 (大学病院 : 4 名 地域拠点病院 : 4 名)
⑥ 臨床心理士・心理士	2 名 (大学病院 : 2 名)
⑦ 診療情報管理士	3 名 (大学病院 : 1 名 地域拠点病院 : 2 名)
⑧ 事務	5 名 (大学病院 : 3 名 地域拠点病院 : 2 名)
⑨ 学生	17 名 (長大生 : 16 名 他大学 : 1 名)

今回の講演『がんの痛み治療ーすべての医療機関でできる WHO 方式がん疼痛治療法にそって』の内容について

### ① よかったところ

- ・ 日本の痛み治療に対する問題点を明示されているところ
- ・ WHO 方式について再度使用法の確認ができた。
- ・ 知識の再確認になった。
- ・ 復習できたこと。臨床での使用について、今までで一番よく理解できた話だった。
- ・ 基礎から臨床まで幅広く、かつ分かりやすく説明して頂いた事。
- ・ モルヒネ使用について、薬剤師として活用できる話が多かった。また、書籍等の紹介もあり、今後の役に立てると思う。
- ・ 全てがタメになりました。ありがとうございます。
- ・ 緩和ケアの重要性がわかった。意識が高まった。
- ・ わかりやすい。ポイントがいい。
- ・ 臨床経験がない人にもわかりやすい専門的基礎知識であったこと。幅広い知識が学べたこと。緩和で著名な他の先生のデータを端的に明確に示したもらったこと。
- ・ 麻薬に関する患者さんの偏見、量が増えていくことへの不安を解消するための助言のために役立ちます。
- ・ 聞いていてわかりやすかった。

- ・ 投与量が痛みが消失するまで増量していける。非癌性疼痛へのモルヒネの適応
- ・ 世界の動向がわかった。各剤の具体例がわかった。
- ・ レスキュードーズの使い方など、大変勉強になりました。
- ・ WHO方式を一つ一つ理解できました。
- ・ モルヒネを推進し、多く利用することは心配なことではないと断言する姿勢。依存性の認識を変える内容。
- ・ 疼痛治療の原則や基本的な考え方がわかってよかった
- ・ 最新の知見まで示していただきました。
- ・ 大変わかりやすく、ためになった。
- ・ 基礎的な点から講義があった点。モルヒネの再度見直しの必要性。フェンタニルパッチの歴史についての説明
- ・ わかりやすい。疼痛コントロールは個人個人に合わせて考えるべき、早期から導入すべきと改めて感じました。
- ・ 働き始めたばかりで、知識も浅いですが、先生の話はすごくわかりやすく、ためになるものでした。
- ・ 簡易な言葉づかいが多くわかりやすかった。
- ・ 新しい情報が得られた。臨床に役立つ情報であった。
- ・ レスキュードーズやラダーについての説明が分かりやすく、日本における緩和医療について理解できた。
- ・ 疼痛に対する必要性と、少ない時多い時の副作用、量の調節等、詳しく説明して頂きありがとうございました。
- ・ 緩和～モルヒネに対する理解が深まりました。
- ・ 総論と世界（米国）情勢がわかる。
- ・ 具体的などころから丁寧に説明していただいた。
- ・ 基本的な点の再確認ができた。
- ・ 先生の講義内容が‘患者中心’の考え方であったところ。
- ・ がん疼痛の基本をわかりやすく学べた事
- ・ モルヒネの使用について理論的に理解できた
- ・ 具体的に実践的な話が聞けて良かった
- ・ がんの痛みについて、基本的などころからわかりやすく学ぶことができた。
- ・ 先生の緩和ケアにかける情熱、熱い思いが伝わった。
- ・ がんの痛み治療では、治療目標を設定し、それを患者に伝える、対話を継続させることが大切だと改めて思いました。
- ・ 痛みに関する基礎知識が得られた
- ・ 基本的な考え方がよく理解できた
- ・ WHO除痛ラダーが試行錯誤の上ででき、がん患者が日本でも多くのモルヒネによ

り除痛できるようになって素晴らしい。百歳まで生きて「がんで死ぬ」のもよさそうだ！がんの除痛がより可能になる未来が見られるように努力することが大切ですね。

- ・ 疼痛の存在下ではモルヒネに依存・耐性ができないというメカニズムが動物実験の結果で示され理解できたこと
- ・ 基本となることをポイントを絞って説明していただいた
- ・ がんの痛みへの鎮痛薬投与の基本原則や強オピオイドの視点
- ・ 世界的な基準を知ることができました。
- ・ 何となくはWHOの除痛ラダーの事は知っていたつもりでしたが、今回のお話で深く知ることができて、とても勉強になりました。新人薬剤師なので、これからもっと痛みについて勉強したいと思います。
- ・ わかりやすかった
- ・ 痛み治療の基本がしっかりおさえてあったところ
- ・ わかりやすかった
- ・ WHO除痛ラダー薬剤の基本的なところが学べました。
- ・ 鎮痛剤の特徴が聞いて良かった。モルヒネの効力を再認識できました。ありがとうございました。
- ・ 質疑応答が活発で良かった。
- ・ 痛みの評価をレスキューの回数で行ってしまいがちになっていたのではないかと気づくことができた。貴重な講演ありがとうございました。
- ・ 勉強になりました。
- ・ オピオイド製剤の使用状況
- ・ 武田先生の講演が長崎で聞いてよかったです。緩和ケア医として元気をもらいました！！
- ・ 癌以外の投与についても理解できた。
- ・ 除痛に対して制限なく処方される
- ・ WHO方式に沿った説明をしていただいたところ。
- ・ とてもわかりやすかったです。本当にきてよかったですと思いました。
- ・ 基本的な知識だけでなく、歴史的背景に関するお話が多く興味深かったです。また、講演、質疑を通じて武田先生の情熱が伝わってきて、私自身モチベーションが上がりました。
- ・ 知っているようで知らなかったWHO方式がん疼痛治療の基本的なことが理解で来た
- ・ がん性疼痛の対処について良くわかった。
- ・ 基本的な内容で、初心者にとっては非常にわかりやすかった。
- ・ わかりやすかった。切り口が新鮮。情熱。

- ・ がんが死ねて良かったと言えるよう痛みのコントロールができれば、身の回りの整理が出来たうえで、穏やかな死が迎えられると感じました。
- ・ WHO方式のがん性疼痛治療法は、どこでも誰にでも適用されるということで紹介されており、日本の疼痛緩和方法を改めて考えることができる。
- ・ 学生でも難しすぎず聞くことができた。これから臨床に出るにあたって、問題や気をつけるべき事が分かった。
- ・ 麻薬について知らないことが多く、新たな認識を得られてよかった（麻薬管理加算等）
- ・ 分かりやすい講義でした。是非、診療所医師にも聞いて欲しかったです。
- ・ WHOの除痛ラダーの基礎を確認できた。
- ・ 力が入りました。
- ・ 非常にわかり易かったです。NK receptorの話は勉強になりました。
- ・ モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルの違いがよくわかりました。
- ・ 痛みを取ることで精神的安定が得られることを再認識した。また、WHO式疼痛治療法について認識が広がった。
- ・ 非常にわかりやすい講演だったと思います。先生のパワーをいただいた気がします。勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 非常にわかりやすく（学生レベルにも）ためになりました。
- ・ WHOの歴史的根拠がわかった。
- ・ 基本的な内容をわかりやすく説明して頂けた。
- ・ モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルの基本的な話が多くて、分かりやすかったです。
- ・ すごく分かりやすい講演でした。とても勉強になりました。
- ・ 社会背景を含め、疼痛の多側面からの理解が深まりました。ありがとうございました。
- ・ 具体例を挙げながらの講演がわかりやすかった。
- ・ わかりやすかった。
- ・ 日本での麻薬の使用量が少ないことを知ったこと。
- ・ 少し難しい部分もあったが、がんの痛みの治療についてわかりやすく、ある程度理解できた。また、市民向けのほんの紹介もあったので、読んでみたいと思ったし、患者さんにも紹介したいと思った。
- ・ わかりやすい講演であった。質問に対しても、適切なわかりやすい回答であった。
- ・ 今まで知らなかった知識を多く得られた。薬理が少し苦手だったが、わかりやすく聞けた。
- ・ WHO方式の立案者のお1人として日本の緩和医療の大御所の貴重なお話を聞けてうれしかった。

## ② 気になったところ

- ・ 経口投与が難しくなった人に、すぐにデュロテップパッチを使用しているのが現状です。私も簡単ネイ医師に処方してもらってました。もう一度勉強していきます。
- ・ 簡単すぎる
- ・ モルヒネ、オキシコドン、フェンタニル 3 剤の特徴。がん・死の意識
- ・ 効かないリンコデをずーっと処方されているが、いるか
- ・ 非がん性疼痛について、モルヒネの使用について質問があったこと。またの機会にでも詳しく聞きたい。
- ・ 紹介された本、モルヒネの皮下投与
- ・ カメラがウロウロする
- ・ 痛みを取る対象→どこにいる患者にでも（いかにして広められるか。）。痛みが消える＝体の不調も消えるのか（だるさ、熱、便秘）
- ・ フェンタニルのキャンディ？小児にも使用できそうですね。
- ・ 麻薬の使い方
- ・ フェンタニルの経口投与方法について
- ・ オピオイドに対してもっと勉強したいと思います。具体的な使用例などを知りたいです。
- ・ 新しい薬、投与方法等
- ・ 医師への麻薬使用の教育
- ・ 時間を決めて投与は守られていないことが多いと思う
- ・ フェンタニルの使用注意について
- ・ 特になし
- ・ 米国と比較して疼痛緩和の点で随分見劣りしていること
- ・ 少し早口
- ・ 麻薬の使い方について気になった。
- ・ 「分かりやすい服薬指示」というところにドキッとしました。その通りだと思いました。
- ・ なし
- ・ 随分前から麻薬の使用料が少ないと言われていたが、今だに改善されていないのかなと思いました。
- ・ 日本でモルヒネ量が少ない
- ・ フェタニルパッチの歴史が浅く、モルヒネから始める点
- ・ 2005 年においても opioid の使用量が増えていないこと
- ・ 特になし
- ・ 特にありません
- ・ 医師の処方がまだ少ない事

- ・ パッチの残薬量にバラつきがあるという事だったけど、貼付を正しく行うことだけで改善されるのか。
- ・ 現在の治療で良いのか改めて見直さなければいけないと感じた(特に痛みに関して敏感にならなければと痛感した)。
- ・ 大学病院の除痛率の低さ
- ・ ちょっと時間が押し過ぎかと。
- ・ 特になし
- ・ 特にありません。
- ・ 海外との差の大きさに驚きました。理解を深め、広く使用されるよう社会に出て貢献していきたいです。
- ・ 鎮痛補助薬：今まで分かりにくかったが、考え方(さわり)を知れたこと。モルヒネ製剤1つ1つ踏み入って説明があったこと。
- ・ 事務員には、後半の内容が難しかった。
- ・ 講演スライドの印刷があるとよかった。
- ・ 経口を推奨され、貼付薬をあまり推奨されない事。貼付薬が良く、体に愛称に合うということを知ったことがあるから。
- ・ 特にないです。

### ③ 講演に対する要望

- ・ 講演で使用されたスライドをインターネット等で見れるようにしてほしいです。
- ・ 米国のモルヒネ処方の実際を聞きたい
- ・ なぜ効くのかなど、もっと深い話を聞きたかった。
- ・ たいへんよかった。
- ・ 適用外処方について
- ・ 症例がもう少し欲しい。
- ・ 本日はありがとうございました。
- ・ スピリチュアルペインについて
- ・ 神経因性疼痛で使用する補助薬の選択方法
- ・ 特になし
- ・ 化学療法について
- ・ 重要なスライドをピックアップしたプリントが欲しかった
- ・ 最後の質問がとても参考になりました。
- ・ 緩和の精神的サポートについての講演を希望します。
- ・ 疼痛管理の up date が知りたいです。
- ・ プレゼンのコピーが欲しかったです。
- ・ 良かったです。
- ・ 時間遵守。できるだけ。

- ・ 19：15 以降
- ・ 当院転院前で参加数が少なく残念です。
- ・ 場所、時刻は良いと思います。
- ・ よくわかりました。
- ・ 可能であれば、パワーポイントの資料を頂きたい。
- ・ 土日にできるだけやって欲しい。
- ・ 薬の使用方法や薬剤選択を詳しく知りたい。
- ・ 症例を挙げて頂けると、臨床をよく知らない薬剤師でも理解しやすいと思いました。
- ・ ハンドアウトがあったら、より一層助かります。
- ・ 会場にいる聴衆に、ところどころでアンケート調査できる（する）形の講演だと、聴く前後での知識レベルの違いがわかってよろしいと思います。

#### 次回の講演で希望すること

- ・ 心のケアか、がん患者さんとのコミュニケーションなどについての講演を聞いてみたいです。
- ・ 精神的ケア
- ・ なぜ効くのかなどメカニズム的な内容のものをやって欲しい。
- ・ 長崎ドクターネットについて
- ・ 副作用対策の薬剤使用について
- ・ 在宅緩和ケアの症例紹介や実際等の講演
- ・ 「がん患者の心のケアについて」 長崎市内で。
- ・ とても熱いお話で興味深く聞くことができました。次回も期待します。
- ・ 神経性疼痛に有用な補助薬について詳しく聞きたかった。
- ・ また数年後に御講演頂きたい
- ・ 場所、曜日、時間はいいと思う。
- ・ 鎮痛補助薬についての講演を年末、年明けぐらいにお願いしたいです。
- ・ がん治療医と緩和ケアの本音のセッション
- ・ 基礎研究の立場からの講演も聞きたい
- ・ 特になし
- ・ 今回のような形式で良いと思います。
- ・ 平日。ここ。
- ・ がんは怖くないことを Dr、Ns、Pt へ。
- ・ 緩和ケアチームに関わるメディカル役割や患者さんと接し方など。
- ・ 場所は今回と同じようなところがいい（交通の便がいい）。時間も今回くらいでいいと思います。内容は SW でもわかりやすいものを希望します。
- ・ 心理的配慮やスピリチュアルケアについても教えてほしい。
- ・ Dr 以外の業種の講師も大いに登壇してもらって欲しい。

#### がん診療センターに対する要望

- ・アナウンスをもっと広範囲にされるといいのではないのでしょうか。
- ・ 各種「講習会」を折々にふれて開いて頂きたいです。